

## MCN コーパスにおける 条件表現「たら」「れば」「ならば」のアノテーション

飯島采永 (お茶の水女子大学理学部)

佐藤果穂 (お茶の水女子大学理学部)

田中リベカ (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

戸次大介 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科

／国立情報学研究所／CREST, JST)

### Annotating Japanese Conditional Expressions "Tara", "Reba", "Naraba" in MCN Corpus

Sae Iijima (Faculty of Science, Ochanomizu University)

Kaori Sato (Faculty of Science, Ochanomizu University)

Ribeka Tanaka (Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University)

Daisuke Bekki (Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University / National  
Institute of Informatics / CREST, JST)

#### 要旨

MCN コーパスでは、命題の確実性に関わる様相・条件・否定表現に対して意味アノテーションを付与している。複数のアノテータ間で一致する判断、すなわち再現性のある言語事実を蓄積するため、ガイドラインには言語学的テストを用いている。本研究では、条件表現「たら」「れば」「なら(ば)」に対するガイドラインを作成し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の新聞記事に対して計 600 件のアノテーションを行った。ガイドラインは、日本語学における先行研究の分類をコーパス上の出現例を元に分割・統合したラベル群、及びそれらに対する言語学的テストから構成される。本論文ではガイドラインの紹介に加え、多数の判断を取りうるアノテーション例についても解説する。

#### 1. はじめに

自然言語で記述されるテキストには、事実だけでなく、推測、仮定、仮想現実などの様々な情報が含まれる。情報を識別する手がかりの一つとして、様相表現、否定表現、条件表現などによって形成される「意味的文脈」がある。人間は、自然言語で書かれた情報を読むとき、これらの文脈に基づいて情報の確実性の判断を行うことができる。機械によって情報の確実性を判断したい場合にも、これらの「意味的文脈」の認識を可能にする必要がある。MCN コーパス (川添ら (2011)) は、機械による確実性判断の基盤となるコーパスを構築するために作成されたものであり、命題の確実性に関わる「意味的文脈」に対して意味アノテーションを付与した言語データである。複数のアノテータ間で一致する判断、すなわち再現性のある言語事実を蓄積するため、言語学的テストを用いたガイドラインを作成しアノテーションを行っている。これまでに複合表現「(と)いう」「(と)する」(叢ら (2013)) や形式名詞「わけ」「はず」「つもり」(宇津木ら (2014)) のガイドラインの作成とアノテーションを行ってきたが、条件表現に対する網羅的なガイドラインは作成されていなかった。

MCN コーパスのアノテーションでは、言語学的テストを採用したガイドラインを使用して

いる。ここでいう言語学的テストとは、文や文の一部の容認性や適切性を判定するものである。たとえば、「複合機能表現『という』」の分類にみる MCN コーパスの方法論検証」(叢ら(2013))におけるガイドラインでは「いう 2」は伝聞の意味を持つ分類である。「いう 2」は「そう(だ)」に置き換えることができる。

- (1) a. ニュースによるとインフルエンザが流行しているという。  
b. ニュースによるとインフルエンザが流行しているようだ。

この置き換えは、言葉を発するという意味をもつ「いう 1」には当てはまらない。

- (2) a. 花子は太郎を天才だという。  
b. \*花子は太郎を天才だそうだ。

このような分類を判定するための言語学的テストを導入した。

本研究では、条件表現「たら」「れば」「なら(ば)」に対してガイドラインを作成し、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の図書館サブコーパス書籍ドメインに対して計 600 件のアノテーションを行った。各表現の分類について、条件表現について平易な文法説明を記し様々な例文を網羅した日本語教育の本である『日本語文法セルフマスターシリーズ 7 条件表現』(有田ら(2001)) (以下、「セルフマスター」と呼ぶ) を参考にした。

## 2. 条件表現について

文(3)～文(5)に条件表現の例を挙げる。『日本語条件文と時制節性』(有田(2007))によると条件表現とは「不確定な知識に基づく推論の明示的な言語表現」とされる。

- (3) 晴れたら動物園に行く。  
(4) 時間があれば本を読む。  
(5)  $n$  が偶数ならば 2 で割り切れる。

代表的な条件表現としては「たら」「れば」「なら(ば)」「と」「ては」などが挙げられる。そのうち今回は「たら」「れば」「なら(ば)」に関して分析を行った。

条件表現の現れる文を「A+条件表現+B」としたとき、A を「前件」、B を「後件」とする。文(3)～文(5)の前件は、出来事を仮定しているもの([仮定])、事実と反対のことを述べているもの([偽])に大別される。これについて「言語情報の確実性に影響する表現およびそのスコープのためのアノテーションガイドライン Ver. 2.4」(川添ら(2011))では、以下のような用法の分類を与えている。

ガイドラインの分類：

分類 1：【予測的条件表現(真偽が未知、判断あり、確実性 100%)】

1 時間後に駅に集合したら、その足でいつもの居酒屋へ直行しよう。

分類 2：【認識的条件表現(真偽が未知、判断あり、確実性 0~99%)】

もしもうまくいかなかったら、別の手段を考えよう。

**分類 3 : 【反事実条件表現(偽であることが既知)】**

太郎が出場していたら、試合に勝てたろう。

分類 1 と 2 は前件が未来の出来事であるため、前件の真偽は未知、つまり[仮定]である。分類 1 と分類 2 の違いは前件の確実性の違いである。分類 1 では前件のおこる確率が書き手(語り手)にとって 100%であるのに対し、分類 2 の前件のおこる確率は 100%未満である。

しかし、前件の分類はこれだけでは十分ではない。たとえば、文(6)の前件は「食べてみた」であるが、これは実際に食べてみた後のため、[仮定]でも[偽]でもない。

また、条件表現を表す語が文章中に現れたとしても、常に含意を表すとは限らない。たとえば、文(7)では前件:「姉がいる」、後件:「兄がいる」となるが、前件の成立が後件の成立に寄与しないため、含意を表さない並列条件となる。文(8)では、そもそも前件が命題ではなく名詞であるために真偽での分類はできないが、文中に出現している「なら」が前方でみたような条件表現だとは考えにくい。

- (6) 食べてみたら美味しかった。
- (7) 私には姉もいれば兄もいる。
- (8) 京都なら京都、東京なら東京の良いところがある。

このように「たら」「れば」「なら(ば)」が文章中に表れても条件表現だとは限らず、見た目だけでは条件表現かそうでないかの判断は困難である。以上のことより本研究では、先述した条件表現の定義にあてはまる例に限らず、二つの事柄を並べる並列条件の用法等も分析対象としている。また前件の分類については、出来事を仮定しているもの([仮定])、事実と反対のことを述べているもの([偽])に加えて、事実を述べているもの([真])、その他([名詞][疑問]等)の4つに分けられるとしている。

**3. 概要****3.1. ガイドラインの紹介**

MCN コーパスのアノテーションで使用しているガイドラインは、「言語情報の確実性に影響する表現およびそのスコープのためのアノテーションガイドライン Ver. 2.4」(川添ら(2011))をもとにしている。もともとのガイドラインには、2 節で述べたように条件表現について用法別のカテゴリが例文とともに示されている。しかし、これらの基準だけでは、ある表現がどのカテゴリに属するかを判断できない場合があるため、「セルフマスター」にある分類を参考にガイドラインを分割・統合した(表 1, 2, 3)。

このガイドラインでは、新たに「前件の条件が真であり、さらに真である中にもいくつかの種類が存在している」という観点から分類をしている。

表 1: 「たら」におけるガイドライン A

		前件	後件	備考	例文
1	たら	過去の事実(真)	過去の事実		食べてみたら、美味しかった
2	たら	過去の持続(真)	過去の事実		本を読んでいたら、電話が鳴った
3	たら	時間の経過(真)	過去形以外	後件が過去形なら、1	五時になったら、帰ってくるでしょう
4	たら	真	前件に基づく判断		・こんな暗い部屋で本を読んでいたら、目が悪くなりますよ
5	たら	仮定(真偽未知)	確実性0~100%		部屋が清潔だったら、病気にならないはずだ
6	たら	仮定(真偽未知)			家に帰ったら、うがいをしなければなりません
7	たら	仮定(真偽未知)	真		新聞を読みたかったら、ここにあるよ
8	たら	偽	偽		お金があつたら、買えるのに
9	たら			疑問文	何を讀んだら、そんなに賢くなれるの
10	たら	単なる状況	真		この道をまっすぐ行ったら、右手に白い建物が あります
				慣用表現	・~したら? / どう? / どうですか(?) ・~ったら / ときたら

表 2: 「れば」におけるガイドライン A

		前件	後件	備考	例
1	れば			並列	庭には梅もあれば桜もあった
2	れば	仮定			・時間があれば、本の整理を手伝ってください
3	れば	時間の経過			春になれば、芽が出る
4	れば	疑問語			どこにいけば受験案内がもらえますか
5	れば	真			ここまで来れば、あとは一人で帰れます
6	れば	偽	偽		お金があれば買えるのに
7	れば	思う・考える・言うなど		発言の前置き	思えば、楽しい人生だった。
				慣用表現	・~ば~ほど ・~ばいい(な / のに / のだが) ・~なければ[いけない / だめだ / ならない] ・~すればいい / すれば?

表 3: 「なら (ば)」におけるガイドライン A

		前件	後件	備考	例文
1	なら(ば)			対比	顔もいいなら、頭もいい
2	なら(ば)	真	意思・判断		明日はプールに行くことにしたよ 一あなたがいくなら私も行くわ
3	なら(ば)	仮定	判断・働きかけ・状態		景気が回復するなら、円高になるだろう
4	なら(ば)	真	偽		海外勤務になるなら、もっと英語を勉強 しておくべきだった
5	なら(ば)	偽	偽		試合に出られたなら、勝てたのに
				慣用表現	・なぜなら(ば)

そのガイドラインをもとにアノテーションを行い、コーパス上の実際の例を参考にネガティブテストを作成し、そのテストを使って再度分類を統合した(表4, 5, 6)。

表4: 「たら」におけるガイドライン B

	前件	後件	備考	例	テスト	
					もし	
1	たら	過去の事実(真)	過去の事実		×	「～したところ」置き換え
2	たら	過去の持続(真)	過去の事実		×	「～していたら」
3	たら	時間の経過(真)	過去形以外	後件が過去形なら、1	×	「ば」置き換え可能
4	たら	真	前件に基づく判断		×	「このように」「かもしれない」挿入可能
5	たら	仮定(真偽未知)			×	「ときには」「というのなら」置き換え、前件に疑問詞あり
6	たら	仮定(真偽未知)	確実性0~100%		○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	たら	仮定(真偽未知)	真		○	「前件の否定+たら+後件の否定」では文意が変わる
8	たら	偽	偽		○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・～したら? / どう? / どうですか(?) ・～ったら / ときたら ・～といたら ・なんだったら		

表5: 「れば」におけるガイドライン B

	前件	後件	備考	例	テスト	
					もし	
1	ば		並列		×	可換
2	ば	時間の経過			×	「するところ」置き換え
3	ば	真			×	「ので」置き換え
4	ば	仮定(真偽未知)			×	「ときには」「というのなら」置き換え、または、前件に疑問詞あり
5	ば	思う・考える・言うなど	発言の前置き		×	なくても文意が通る
6	ば	仮定(真偽未知)			○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	ば	偽	偽		○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・～ば～ほど ・～ばいい(な / のに / のだが) ・～なければ / ねば [いけない / だめだ / ならない] ・～すればいい / すれば?		

表 6: 「なら (ば)」におけるガイドライン B

	前件	後件	備考	例	もし	テスト
1	なら(ば)		並列	顔もいいなら、頭もいい	×	可換
2	なら(ば)	名詞	前件と同様の名詞	木なら木は、そこに木があるというだけでは木ではない	×	前件と後件が同じ単語
3	なら(ば)	名詞	前件とイコールとなる名詞が入っている	だから最高の売れっ子は遊女なら太夫、女郎なら花魁と考えればわかりやすい	×	「については」置換可能
4	なら(ば)	名詞		君のためならなんでもする	×	「なら」の前に格助詞「に」などが入る
5	なら(ば)	真	意思・判断	・明日はプールに行くことにしたよ ・あなたがいくなら私も行くわ ・海外勤務になるなら、もっと英語を勉強しておくべきだった	×	前件と後件で文章を分け、間に「それでは」が挿入可能
6	なら(ば)	仮定(真偽未知)	判断・働きかけ・状態	景気が回復するなら、円高になるだろう	○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	なら(ば)	偽	偽	試合に出られたなら、勝てたのに	○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・なぜなら(ば) ・なんなら		

また、更に「たら」「れば」「なら (ば)」の3表現間の対応を考えて改良を行った。これが最終的なガイドライン C (表 7, 8, 9) である。

表 7: 「たら」におけるガイドライン C

	前件	後件	備考	例	もし	テスト
1	たら	過去の事実(真)	過去の事実	食べてみたら、美味しかった	×	「～したところ」置き換え
2	たら	過去の持続(真)	過去の事実	本を読んでいたら、電話が鳴った	×	「～していたら」
3	たら	時間の経過(真)	過去形以外	後件が過去形なら、1 五時になったら、帰ってくるでしょう	×	「ば」置換可能
4	たら	真	前件に基づく判断	・こんな暗い部屋で本を読んでいたら、目が悪くなりますよ	×	「このように」「かもしれない」挿入可能
5	たら	仮定(真偽未知)		・家に帰ったら、うがいをしなければなりません ・何を読んだら、そんなに賢くなれるの	×	「ときには」「というのなら」置き換え、前件に疑問詞あり
6	たら	仮定(真偽未知)	確実性0~100%	・部屋が清潔だったら、病気にならないはずだ ・この道をまっすぐ行ったら、右手に白い建物があります	○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	たら	仮定(真偽未知)	真	新聞を読みたかったら、ここにあるよ	○	「前件の否定+たら+後件の否定」では文意が変わる
8	たら	偽	偽	お金があつたら、買えるのに	○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・～したら? / どう? / どうですか(?) ・～ったら / ときたら ・～といったら ・なんだったら		

表 8: 「れば」におけるガイドライン C

	前件	後件		もし		
1	ば		並列	庭には梅もあれば桜もあった	×	可換
2	ば	時間の経過		春になれば、芽が出る	×	「するところ」置き換え
3	ば	真		ここまで来れば、あとは一人で帰れます	×	「ので」置き換え
4	ば	仮定(真偽未知)		・氷が溶ければ水になる ・どこにいけば受験案内がもらえますか	×	「ときには」「というのなら」置き換え、または、前件に疑問詞あり
5	ば	思う・考える・言うなど	発言の前置き	思えば楽しい人生だった	×	なくても文意が通る
6	ば	仮定(真偽未知)		時間があれば、本の整理を手伝ってください	○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	ば	仮定(真偽未知)	真	新聞を読みたければ、ここにあるよ	○	「前件の否定+ば+後件の否定」では文意が変わる
8	ば	偽	偽	お金があれば買えるのに	○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・～ば～ほど ・～ばいい(な／のに／のだが) ・～なければ／ねば[いけない／だめだ／ならない] ・～すればいい／すれば？		

表 9: 「なら (ば)」におけるガイドライン C

	前件	後件		例	もし	テスト
1	なら(ば)		対比、並列	顔もいいなら、頭もいい	×	可換
2	なら(ば)	名詞	前件と同様の名詞	木なら木は、そこに木があるというだけでは木ではない	×	前件と後件が同じ単語
3	なら(ば)	名詞	前件とイコールとなる名詞が入っている	だから最高の売れっ娘は遊女なら太夫、女郎なら花魁と考えればわかりやすい	×	「については」置換可能
4	なら(ば)	名詞		君のためならなんでもする	×	「なら」の前に格助詞「に」などが入る
5	なら(ば)	真	意思・判断	・明日はプールに行くことにしたよーあなたがいくなら私も行くわ ・海外勤務になるなら、もっと英語を勉強しておくべきだった	×	前件と後件で文章を分け、間に「それで」が挿入可能
6	なら(ば)	仮定	判断・働きかけ・状態	景気が回復するなら、円高になるだろう	○	「ときには」「というのなら」置き換え
7	なら(ば)	仮定(真偽未知)	真	新聞を読みたいなら、ここにあるよ	○	「前件の否定+なら+後件の否定」では文意が変わる
8	なら(ば)	偽	偽	試合に出られたなら、勝てたのに	○	「元の文+しかし+後件の否定」で文意が通る
			慣用表現	・なぜなら(ば) ・なんなら		

### 3.2. ガイドライン A と B の相違点

ガイドライン B にはアノテータ間の一致率を高めるためにテストを作成し、そのテストを用いて A の分類を再度見直した。各表現のガイドラインについて個別に行った改良を以下に解説する。(以下ではガイドライン A の分類 9 を「A9」などと表す。)

### 3.2.1. 「たら」ガイドラインにおける改良

「たら」ガイドラインの改良では、分類の統合を行った。『たら』ガイドライン A には、以下の分類 A9 が存在していた。

(A9) 疑問文: 何を読んだら、そんなに賢くなれるの。

しかし「何を読んだら」という前件は、疑問詞を含んでいるという違いこそあれ、文としては分類 A5～A7 にみられるように仮定を示していると考えられる。さらにこの文には「もし」を挿入することは不可能であることから、A9 と A6 を「前件:仮定(テストで「もし」がつかない)」の B5 に統合した。

また、分類 A10 を A5 と統合し、分類 B6 としている。

(A10) 単なる状況: この道をまっすぐ行ったら、右手に白い建物があります。

分類 A10 は一見すると分類 A7 と統合されうるようにも見える。上の文に「右手に」という情報が付加されていなければ「この道をまっすぐ行ったら、白い建物があります」となり、話し手や聞き手が「この道をまっすぐ行」こうと行かまいと「白い建物」はあるので、前件の真偽に関わらず後件は真になるためである。しかし、分類 A7 を元に作成した分類 B7 の『前件の否定+たら+後件の否定』という文を作り、元の文と比べて文意が変わらなければその文は B7 ではない」というテストに当てはめると、「この道をまっすぐいかなかったら右手に白い建物はない」となり、文意が変わらないので B7 に分類することはできない。最終的には、「たら」を「ときには」に置き換えることが可能であることから、A10 を A5 と統合し B6 とした。

### 3.2.2. 「なら(ば)」における改良

「なら(ば)」のガイドラインでは、分類 A4 と A2 を統合し、B5 とした。分類 A4 は前件が真、後件が偽であるような用法であり、以下のような例を含むとしていた。

(A4) 前件 真/後件 偽: 海外勤務になるなら、もっと英語を勉強しておくべきだった。

しかし後件の「もっと英語を勉強しておくべきだった」というのは前件の「海外勤務になったことをふまえてのその時点での書き手にとっての反省であり、「偽」であると考えられるのは不適切である。後件の反省は、書き手の前件を踏まえた感情・意思であると考えられるので、「前件 真/後件 意思・判断」である A2 と統合し B5 とした。これに伴い、前件が真、後件が偽であるとする分類は削除された。

また、新たな分類の追加も行った。新たな分類の追加は、文に対してテストを適用した結果、既存の分類のどれにも含まれないと判定された際に検討される改良である。

(9) 最高の売れっ子は遊女なら大夫、女郎なら花魁と考えればわかりやすい。

この文においては、「最高の売れっ子の遊女」＝「大夫」、「最高の売れっ子の女郎」＝「花魁」というように前件と後件の間にイコールの関係が成り立つ。この関係は既存の分類の



どこにも分類されないため、新たに分類 B3 を作成した。

(10) 木なら木はそこに木があるというだけでは木ではない。

前件と後件が同じ単語であるので分類 B3 のようにイコール関係を示しているのではなく、その単語の強調ではないかと考えられる。この関係もどこにも分類されないため、新たに分類 B2 を作成した。

(11) 君のためならなんでもする。

この例文の前件は「君のため」という名詞句であるが、B2 のような繰り返しでもなく、B3 のように後件とイコール関係を持っているわけでもないのので、どちらにも分類することはできない。したがって新しく分類 B4 を作成した。

### 3.3. ガイドライン B と C の相違点

さらに、ガイドライン B を改良し、ガイドライン C を作成した。この改良では、「たら」「れば」「なら (ば)」各表現のガイドラインの対応を考えた。たとえば、「たら」における分類 B1「前件:過去の事実/後件:過去の事実」の用法は「たら」だけにしかない用法である。

- (12) a. 食べてみたらおいしかった。  
 b. \*食べてみればおいしかった。  
 c. \*食べてみたならおいしかった。

しかし、「たら」の B8「前件:偽/後件:偽」の分類は、文(13)にみられるように「れば」「なら (ば)」に共通して現れている。他の用法でも対応を考慮し、更なる改良を行った。

- (13) a. お金があったら買える。  
 b. お金があれば買える。  
 c. お金があったなら買えた。

また、「たら」の B7「前件:仮定/後件:真」の用法は他の表現の分類には含まれていなかったが、実際は「れば」「なら (ば)」にも対応する用法がある。そのため「れば」C7、「なら (ば)」C7 の分類を追加した。

- (14) a. 新聞が読みたかったら、ここにあるよ。  
 b. 新聞が読みたければ、ここにあるよ。  
 c. 新聞が読みたいなら、ここにあるよ。

この他に、前件に名詞がくるのは「なら (ば)」特有の用法であり、更に3つの下位分類があった。このように各表現間には同じ用法もあり対応がみられるが、その一方で各表現にしかない特有の用法も見られた。

#### 4. アノテーション作業と問題点

「たら」「れば」「なら(ば)」の3つの条件表現アノテーション作業はガイドライン設計者2名で行った。それぞれの表現について、多くの文章の中から該当の表現が出現する部分を抜き出し、その用法がどのカテゴリに属するかを、テストをもとに判断した。アノテーションの件数は「たら」「れば」「なら(ば)」それぞれ200件ずつ、計600件行った。アノテーションを行う中で、以下のような例に対するアノテーションが問題となった。

(15) 飴ならここにある。

文(15)の前件は一見すると名詞だが、文脈によっては「飴なら」は省略された形である可能性もあり、「飴が欲しいなら」や「飴を探しているなら」などの候補が考えられる。一方で別の文脈のもとでは、前件の名詞句と「なら」の間に格助詞を補うことも可能である。このように省略されている可能性がある場合、テストの適用が困難となり、判別ができなかったり間違った分類をしたりする恐れがある。

また、話し言葉の場合、略語が使われていてそのまま置き換えができない場合があった。たとえば、「そうしたら」を「ば」に置き換える時(分類C3のテスト)は「そうすれば」でいいのだが、「そうしたら」の略語である「そしたら」はそのまま置き換えようとすると「そすれば」という変な言葉になってしまう。しかし、「そうしたら」の略語であるのだから、「そうすれば」に置き換えたい。そのためには、「そしたら」を「そうしたら」に戻さなければならない。こういった省略すべてに対応表をつくることは難しい。

#### 5. 結論

「たら」「れば」「なら(ば)」の3つの条件表現に関して、ガイドラインとテストを作成し、アノテーションを行った。いまだ分類が難しい例や問題点があるため更なる改良が必要である。

#### 参考文献

- 宇津木舞香、佐藤未歩、青木花純、田中リベカ、戸次大介、川添愛(2014)「MCNコーパスにおける形式名詞『はず』『わけ』『つもり』のアノテーション」、言語処理学会第20回年次大会発表論文集、B7-1
- 叢悠悠、田中リベカ、中村絢子、酒向美帆、佐宗智子、清水蘭、劉月晴、川添愛、戸次大介(2013)「複合機能表現『という』の分類にみるMCNコーパスの方法論検証」、国立国語研究所第3回コーパス日本語学ワークショップ論文集、pp. 71-80
- 川添愛、齊藤学、片岡喜代子、崔榮殊、戸次大介(2011)「言語情報の確実性に影響する表現およびそのスコープのためのアノテーションガイドライン Ver. 2.4」、Technical Report of Department of Information Science, Ochanomizu University, OCHA-IS 10-4
- 有田節子(2007)『日本語研究叢書20 日本語条件文と時制節性』、くろしお出版
- 有田節子、蓮沼昭子、前田直子(2001)『日本語文法セルフマスターシリーズ7 条件表現』、くろしお出版